

# 平成24年度 事業報告

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

## 本部

本年度4月からの介護報酬・障害福祉サービス報酬の改定は、当法人にとって特に従来型の介護老人福祉施設において減収の影響が大きく、施設の老朽による突発的な修繕案件や冬季の利用者の体調不良頻発と相まって、更に厳しい施設経営を余儀なくされているところである。

障害福祉サービスにおいては、報酬改定によるマイナスの影響はさほどでもなく、これまでの実績評価による加算や利用者の増員もあり、おおむね好調であった。一方、障害者自立支援法の改正により相談機能の充実が図られ、当法人においても各施設に5事業所を開設し、合わせて6事業所となった。制度開始直後の手探り状態の中、僅かな人員にて次々と飛び込む問い合わせや依頼への対応に苦慮する場面が多々見受けられ、制度の浸透はさることながら、相談支援専門員の幅広い見識と判断力を総合的に高めていける育成環境づくりが新たな課題となった。

安定的な経営基盤の強化をひとつの柱とし、平成25年度から施行となる給与制度の改定を実施した。等級制度のステップの増加・資格手当の創設などで各階層にて次なる目標を手の届くものとし、人材育成の土台の一助とする。引き続き、各職種・等級における成長ステップを明確にし、評価制度の改正へと繋げていく。

## 1 経営実施状況

### (1) 諸会議

#### ア 理事会の開催状況 (計 9回)

開催年月日	議 題
平成24年5月21日 (月)午後3時30分	第1号議案 平成23年度事業報告・決算(案)について 第2号議案 理事長の互選について 第3号議案 諸規程の改定について 第4号議案 障害者就労支援センターについて
平成24年6月21日 (木)午後2時30分	第1号議案 評議員の選任について
平成24年8月21日 (火)午後2時00分	第1号議案 理事の辞任報告と関連事項の決議について 第2号議案 評議員の選任について 第3号議案 障害者虐待休日・夜間電話相談事業の受託について
平成24年10月15日 (月)午後2時00分	第1号議案 理事の選任報告・評議員の選任について 第2号議案 指名競争入札の業者選定について 第3号議案 緑風建屋拡張にかかる日本財団補助申請について 第4号議案 港ワークキャンパス改修工事にかかる設計・監理業務契約について

平成 24 年 11 月 22 日 (木) 午後 3 時 30 分	第 1 号議案 上半期事業報告・中間決算(案)について 第 2 号議案 第一次補正予算(案)について 第 3 号議案 定款の変更について 第 4 号議案 入札予定業者の選定について 第 5 号議案 積立金の取崩について
平成 24 年 12 月 20 日 (木) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 指名競争入札の参加業者について 第 2 号議案 指名競争入札の実施手順について
平成 25 年 1 月 10 日 (木) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 指名競争入札の結果報告と落札業者との契約について 第 2 号議案 緑風相談支援事業の開始について
平成 25 年 2 月 25 日 (月) 午後 2 時 00 分	第 1 号議案 定款の変更について
平成 25 年 3 月 21 日 (木) 午後 3 時 30 分	第 1 号議案 第二次補正予算(案)について 第 2 号議案 平成 25 年度事業計画・収支予算(案)について 第 3 号議案 給与制度の改定について 第 4 号議案 諸規程の改定について 第 5 号議案 積立金の積立・取崩について 第 6 号議案 基本財産への組み入れについて

イ 評議員会の開催状況 (計 7 回)

開催年月日	議 題
平成 24 年 5 月 21 日 (月) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 平成 23 年度事業報告・決算(案)について 第 2 号議案 役員の選任について
平成 24 年 6 月 21 日 (木) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 理事の選任について
平成 24 年 8 月 21 日 (火) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 理事の辞任報告と関連事項の決議について
平成 24 年 10 月 15 日 (月) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 理事の選任について
平成 24 年 11 月 22 日 (木) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 上半期事業報告・中間決算(案)について 第 2 号議案 第一次補正予算(案)について 第 3 号議案 定款の変更について
平成 25 年 2 月 25 日 (月) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 定款の変更について
平成 25 年 3 月 21 日 (木) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 第二次補正予算(案)について 第 2 号議案 平成 25 年度事業計画・収支予算(案)について 第 3 号議案 給与制度の改定について 第 4 号議案 諸規程の改定について

ウ 部長会（施設長会）の開催状況（計 12 回）

開催年月日	議 題
平成 24 年 4 月 26 日(木)	各施設報告について 各事業稼働率について 監事監査について 処遇改善について 統括会議報告について
平成 24 年 5 月 16 日(水)	理事会・評議員会について 各施設報告について 障害者就労支援センターについて
平成 24 年 6 月 27 日(水)	各施設報告について 夏季賞与について 施設・事業所の節電対策について 統括会議報告について
平成 24 年 7 月 18 日(水)	各施設報告について 本部からの連絡事項 統括会議報告について
平成 24 年 8 月 23 日(木)	理事会・評議員会報告について 事業実績報告・各施設報告 統括会議報告について
平成 24 年 9 月 19 日(木)	事業実績報告・各施設報告について 統括会議報告について 情報管理ツールの提案について
平成 24 年 10 月 25 日(木)	事業実績報告・各施設報告について 統括会議報告について 訃報に関する取りまとめについて
平成 24 年 11 月 19 日(月)	事業実績報告・各施設報告について 統括会議報告について 理事会・評議員会について
平成 24 年 12 月 19 日(水)	事業実績報告・各施設報告について 統括会議報告について 人事・年末年始について
平成 25 年 1 月 23 日(水)	事業実績報告・各施設報告について 統括会議報告について
平成 25 年 2 月 20 日(水)	事業実績報告・各施設報告について 統括会議報告について
平成 25 年 3 月 18 日(月)	事業実績報告・各施設報告について 給与改定について 新年度人事について

( 2 ) 登記事項

緑風 大規模修繕に伴う床面積の変更による登記

平成 24 年 5 月 23 日登記

法人 平成 23 年度 資産変更登記

平成 24 年 5 月 28 日登記

役員に関する事項 ( 理事長住所地変更 )

平成 24 年 9 月 5 日登記

法人の目的等変更登記 ( 相談支援事業・障害児通所支援事業 )

平成 25 年 3 月 25 日登記

( 3 ) その他事業

ア 愛盲報恩会事業

・助成事業

25 団体 1,560,000 円

・第 7 回 近藤正秋賞、片岡好亀賞、地域活動特別賞贈呈式

名古屋盲人情報文化センターにて

平成 24 年 12 月 2 日

イ 国兼基金事業

物故者慰霊祭

平成 24 年 10 月 13 日

ウ 補正予算

・第一次補正

平成 24 年 11 月 22 日 理事会・評議員会承認

・第二次補正

平成 25 年 3 月 21 日 理事会・評議員会承認

エ 緑風 大規模修繕 完成式

平成 24 年 4 月 25 日

オ 職員研修

若手職員研修 32 名 平成 24 年 5 月～平成 25 年 2 月 5 日間

( 採用 5 年未満対象 成長分野等人材育成支援事業の活用による )

係長対象研修 34 名 平成 24 年 7 月 21 日

法人基礎研修 30 名 平成 24 年 6 月 5 日・11 月 14 日

職員全体研修 ( 会場 アイリス愛知 ) 178 名

講義テーマ「職場活性のためのセルフエスティーム」平成 25 年 3 月 9 日

( 4 ) 会計手続について

平成 24 年 3 月 31 日にて明和寮・施設入所支援事業の廃止に伴い、事業を移行した福祉ホームあかりへ平成 24 年 4 月 1 日付けで各種残高を合算した。

平成 24 年 4 月 1 日開設となった相談支援事業 ( 光和・明和・港ワーク・戸田川障害者相談センター ) 並びに平成 25 年 3 月 1 日開設となった「りよくふう障害者相談センター」、合わせて 5 事業所について経理区分を追加した。

## 2 助成・寄付に関する特記事項（順不同）

### （1）助成に関する特記事項

#### 愛知県 基盤整備事業

光和寮 就労継続支援 B 型 設備整備	4,972,000 円
明和寮 就労継続支援 B 型 設備整備	4,693,000 円
港ワークキャンパス 就労継続支援 B 型 設備整備	3,276,000 円
港ワークキャンパス 就労継続支援 B 型 施設整備	15,056,000 円

#### 立川福祉基金

名古屋盲人情報文化センター	500,000 円
---------------	-----------

### （2）寄付に関する特記事項（順不同）

愛知県共同募金会 様	388,000 円（各事業所）
故 辻 昌子 様	17,729,438 円（本部・瀬古第二マザー園）
坂文種報徳会 様	500,000 円（本部）
中島 真太郎 様	100,000 円（国兼基金）
川地 鉦一 様	1,100,900 円（明和寮）
中島 留宇子 様	100,000 円（明和寮）
後藤 正長 様	100,000 円（明和寮）
入所者 様	1,000,000 円（戸田川グリーンヴィレッジ）
入所者ご家族 様	200,000 円（戸田川グリーンヴィレッジ）
名古屋眼鏡（株）様	137,520 円（名古屋盲人情報文化センター）
点訳グループくすのき様	500,000 円（名古屋盲人情報文化センター）
北山 忠生 様	172,000 円（名古屋盲人情報文化センター）

## 光和寮 拠点

障害者支援施設	『光和寮』
就労継続支援事業 B 型	
就労移行支援事業	
施設入所支援	
生活介護事業	
福祉ホーム	『かわな』・『やすだ』
地域活動支援事業	『デイサービスセンタークリエイト川名』
指定障害者居宅介護・移動支援事業	『ガイドネットあいさぼーと』
相談支援事業	『光和障害者相談センター』

本年度においても、各事業のサービス向上と実績向上を図ってきた。特にガイドネットあいさぼーとにおける稼働時間のアップを押し進め、また、生活介護及びクリエイト川名の稼働率の向上に努めてきた。10月から実験的に始めた一部利用者の生産活動を伴う生活介護も多くの利用者に利用していただき、生活訓練の一部になっている。さらに就労移行支援事業における就職率向上と職場定着率を上げる事を進めてきた。

4月から始めた相談支援事業も今期後半から多くの相談を受け付け、障害福祉サービス利用計画作り等において地域に向けた幅広い窓口に育ち始めている。

光和寮全体としてのサービス向上に努める事で、地域における必要な資源として確立される事を目標としてきた。制度が刻一刻と変化する中で、柔軟に対応し地域や養護学校との交流を進め、広く障害者福祉に関する情報発信にも努めてきた。

ご利用いただく利用者及び地域にお住まいの障害者にとってきめ細かいサービスを提供し、さらに障害者福祉業界における基幹施設となれるよう努めていく。

### 1 就労継続支援事業 B 型 『光和寮』

本年度は今まで取り組んできたことの更なる展開や新たなアプローチを展開し進められた。

部品加工科では、自主製品について地域活動支援センタークリエイト川名や印刷科など他部署の新商品を取り入れ、金山の即売会に出店するなど、光和寮全体で取り組む事ができた。また、作業面では既存の取引先との関係を強化することで、新しい作業の確保もでき新規の取引先の確保も行う事ができた。利用者の確保については、技能開発センターのポジションを明確にして利用者の選択肢を増やすことで、利用者確保に繋げる事ができた。

印刷科については、年度初めより印刷・録音の営業を一元化させ問題なく機能した。また、営業が一元化されたことにより録音速記から印刷へ、また逆のパターンで印刷の顧客に対し積極的に録音速記の売り込みをかけることにより、主に行政・大学関係で成果が出始めた。設備面では、2色刷り・両面印刷機のほかオンデマンド機のリブ

レイスにより作業能力を向上させ外注費の圧縮を行ったが、印刷業界での複合機の導入が進み、激しい価格競争による単価下落などで売上減、売上予算未達となり、課題の残る一年であった。

治療部においては、4月から9月の前半に飯田街道に面する南側の壁に幟を3枚貼り出したり、新規患者さんに担当治療師名でお礼状を出したりして新規患者の定着を目指した。また、12月には幟に代わり治療室のマッサージの様子をデザインした看板にリニューアル（照明付き）したことに加え、暗いと不評だった南外側のアプローチにLED照明を新設してイメージを一新し、約300名もの新規患者が来院した。

各科、新しい取り組みを行う事ができた。B型工賃の底上げも行い、利用者の処遇改善に手を付けることができた。更なる改善に向けて積極的に取り組んでいく。

#### ア 工賃支払状況

在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者（）内は通所利用者			工賃（年間総支給額÷12）		
	男	女	計	最高	最低	平均
鍼灸治療科	6(5)	5(4)	11(9)	235,146	64,891	133,565
印刷科	9(8)	3(2)	12(10)	114,176	14,332	52,804
部品加工科	38(27)	16(10)	54(37)	81,592	4,031	20,294
計	53(40)	24(16)	77(56)	-	-	40,723

#### イ 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	54	1	2	53	80
女	23	4	3	24	
計	77	5	5	77	

#### ウ 障害別状況（平成25年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
33	32	1	17	1	0	77(7)

（）内は重複障害再掲

#### エ 障害程度区分（平成25年3月31日現在）

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
22	3	21	23	7	1	0	77

#### オ 年齢構成（平成25年3月31日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
1	13	13	12	25	13	77	43.2歳

## カ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
80	4	21	1,503	71.5	89.5%
	5	22	1,573	71.5	89.4%
	6	22	1,537	69.8	87.3%
	7	22	1,561	70.9	88.7%
	8	21	1,490	70.9	88.7%
	9	21	1,440	68.5	85.7%
	10	22	1,558	70.8	88.5%
	11	22	1,522	69.1	86.5%
	12	20	1,415	70.7	88.4%
	1	20	1,403	70.1	87.7%
	2	20	1,398	69.9	87.4%
	3	21	1,478	70.3	87.9%
	計	254	17,878	70.3	87.9%

## 2 就労移行支援事業『光和寮』名古屋東ジョブトレーニングセンター

本年度は7名が一般企業へ就職し、3名が就労継続支援事業A型へ移行する事ができた。前年度に比べると数字上は下がっているものの、本年度としても実績が残せたと評価できると考えている。

これまで定着支援に重点を置き、継続した企業就労ができるように支援強化してきた事もあり、就労定着率も安定している。

前年度平均12.3名/日であった一日の利用訓練生が本年度は15.2名と向上し、数字上は評価したいところであるものの、定員18名には至っていない事もあり利用者確保は継続した課題となっている。そのため、「ジョブトレ通信」の定期発行をし各関係機関等への配布を積極的に行い、実績等を公開する事で当事業所を評価し利用していただけるよう努めてきた。また、パンフレットも刷新し定期的に各関係機関等への配布を行ってきた。その他、関係機関や学校が抱えている困難ケースを積極的にマネジメントし、当事業所とは関わりのなかった働く障がい者の離職危機ケースの相談も受入れ、就労支援のプロフェッショナルとして支援対応を行ってきた。このような公益性ある活動が、今後の事業の安定と就労支援ノウハウの蓄積に寄与するものとみる。



ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	11	10	8	13	18
女	8	2	6	4	
計	19	12	14	17	

イ 退所後の進路

一般企業	就労継続A型	就労継続B型	その他	合計
7	3	3	1	14

ウ 障害別状況（平成 25 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
0	0	0	16	1	0	17

エ 障害程度区分（平成 25 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
17	0	0	0	0	0	0	17

オ 年齢構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
4	8	3	1	1	0	17	26.2 歳

カ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
18	4	21	339	16.1	89%
	5	22	401	18.2	101%
	6	22	405	18.4	102%
	7	22	406	18.4	102%
	8	21	364	17.3	96%
	9	21	337	16.0	88%
	10	22	339	15.4	85%
	11	22	313	14.2	78%
	12	20	246	12.3	68%
	1	20	247	12.3	68%
	2	20	237	11.8	65%
	3	21	263	12.5	69%
	計		254	3,897	15.2

### 3 施設入所支援『光和寮』

#### (1) 生活支援

本年度は、利用者の個別状況や安全と安心を最優先とする支援を行い、居室内の環境整備、社会資源の情報提供を行った。退所者は出身地の施設に入所した1名、福祉ホーム「やすだ」に移行した1名の計2名であった。入所者は1名で就労移行支援事業を利用されている。体験利用者は1名であった。

3年に一度実施しているの利用者居室の部屋替えの年にあたり、個別に聞き取りを行い、部屋替えを行った。また、地域移行への話として福祉ホームなどへの変更希望も聞き、地域への自立に向けた相談、支援を行った。

設備面で修繕等の頻度が多くなってきた為、随時対応して修理、交換を行った。居室内のエアコン、冷蔵庫の交換を実施した。次年度も、1階食堂、大浴場更衣室、ロビー自動販売機前のエアコンに不具合が発生している為、修理、交換の対応をしていく。

#### (2) 給食及び栄養指導について

本年度は、豪華な食事の「特別メニュー」に加え、利用者に季節感を味わっていただくため、旬の食材を使用した「行事食」に力を入れた。また、生活支援員・看護師・栄養士で生活面における個別支援計画を作成し、他職種と連携をして、より専門的に利用者に対する支援体制を強化した。

栄養面では、月に1回の体重測定や食事記録など、個別に栄養指導を行い、利用者の健康状態の維持、向上に努めた。

#### (3) 防災と安全確保について

本年度は、利用者が自ら缶詰やレトルト食品の開封体験をし、より実践的な訓練を行った。

非常食についてのマニュアルを作成し、全職員が非常食を提供できるように体制を整えた。

#### (4) 地域生活移行推進に向けて

利用者のニーズに合わせた生活支援を行い地域移行に必要となる情報提供を行い、ヘルパーの利用について説明会を実施した。また、福祉ホーム「やすだ」で体験利用をして頂き、利用者の自信に繋がる支援を行った。次年度も引き続き必要な情報を提供し、支援を行う。

#### ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	12	1	0	13	32
女	10	0	2	8	
計	22	1	2	21	

イ 障害別状況（平成 25 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
11	8	1	4	0	0	21 (3)

( )内は重複障害再掲

ウ 障害程度区分（平成 25 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
0	1	5	12	3	0	0	21

エ 年齢構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	3	2	4	11	1	21	48.0 歳

オ ボランティア活動状況

活動内容	述べ参加人数
夏まつり	44 名
地域交流フェスティバル	90 名
メイクサロン	4 名
クリスマス会	3 名
新年鍋パーティー	4 名

#### 4 生活介護事業『光和寮』

本年度の取り組みとして、職員の資質向上を目指し外部研修や内部研修などを行った。利用者に関しては、昨年度平均利用率 70.0%だったが、本年度は 72.5%と少しずつではあるが向上してきている。

次年度に向けて、障害特性に合わせた活動を提供できるように、活動部屋を 2 つに分ける事を試験的に行い成果を得たため、次年度も引き続き実施していく。

また、次年度行う予定の生産活動についても試行的に訓練を行ってきた。

入浴サービスに関しては、入浴人数が少なかったために本年度で取り止めて、他の活動の充実を図る。

次年度に向けて、生産活動を本格的に行うなど、障害特性に応じた活動を充実させていき、利用者の確保にも繋げていく。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度登録者	本年度解除者	期末在籍者	定 員
男	15	2	1	16	20 / 日
女	11	1	2	10	
計	26	3	3	26	

イ 障害別状況（平成 25 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
10	8	13	7	1	0	26(13)

( )内は重複障害再掲

ウ 障害程度区分（平成 25 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
0	0	4	7	6	2	7	26

エ 年齢構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
1	7	1	2	7	8	26	46.0 歳

オ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
20	4	20	293	14.6	73.2%
	5	21	307	14.6	73.0%
	6	22	332	15.0	75.4%
	7	21	312	14.8	75.2%
	8	20	301	15.0	75.2%
	9	19	275	14.4	72.3%
	10	22	314	14.2	71.3%
	11	21	302	14.3	71.9%
	12	18	264	14.6	73.3%
	1	17	234	13.9	69.7%
	2	19	259	13.6	68.1%
	3	20	288	14.4	72.0%
		計	240	3,481	14.5

カ ボランティア活動状況

活動内容	述べ参加人数
活動補助	189 名
音楽講師	84 名
マッサージ	12 名

5 福祉ホーム『かわな』『やすだ』

(1) かわな

本年度の退所者は就労継続支援事業 A 型に移行し一般住宅への転居が 1 名、地元へ帰郷し就職した 1 名、入院後亡くなり契約解除 1 名の計 3 名であった。新規

入所者は1名であった。

長期居住者の地域移行は進まなかったが、市営住宅の申し込みを各自に実施させ、また高齢者向けの住宅も探し、さらに介護サービスのある施設も居住候補先に入れ、行き先の多様化を図った。

設備面では各居室のエアコンの交換は終わり、利用者からの評判は非常に良い。

次年度は、故障が発生し始めているガス給湯器の修理対応と、IHコンロを新型に随時入れ替える方針である。

#### ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	10	0	1	9	15
女	4	1	2	3	
計	14	1	3	12	

#### イ 障害別状況（平成25年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
3	8	1	0	0	0	12

#### ウ 障害程度区分（平成25年3月31日現在）

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
9	0	1	1	1	0	0	12

#### エ 年齢構成（平成25年3月31日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	0	0	3	3	6	12	58.2歳

### (2) やすだ

本年度の退所者は0名、入所者は1名であった。福祉ホームに移行して3年となり、利用者の部屋替えを行った。加えて、ヘルパーの利用について説明会を実施した。現在、5名の方がヘルパーのサービスを利用しながら生活している。

利用者の高齢化に伴い、退所後の住まいをイメージできるように対象者の方に対して他施設の見学会（家族の方も参加）を実施した。

設備面では、故障したエアコンを随時交換し、冷蔵庫も経年劣化の9台を交換した。

#### ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	7	0	0	7	11
女	2	1	0	3	
計	9	1	0	10	

イ 障害別状況（平成 25 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
4	6	0	0	0	0	10

ウ 障害程度区分（平成 25 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
0	1	4	4	1	0	0	10

エ 年齢構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	2	2	0	2	4	10	48.0 歳

## 6 地域活動支援事業『デイサービスセンタークリエイト川名』

本年度は、利用率が70%を下回ることなく、月によっては80%を上回ることもあった。定員19名に対し、1日あたりの平均利用人数も14名を上回っている。活動においても、外部講師による体操や音楽などの活動も前年度に引き続いて行っており、利用者のニーズに対応している。

利用者も名古屋市内に留まらず、東海市・一宮市・稲沢市・瀬戸市・北名古屋市・安城市・春日井市とも事業者間契約を結んでいるが、新たに刈谷市在住の方も利用を希望されるなど、視覚障害者のデイサービスとして広く認知されてきている。

利用登録者数も48名と着実に伸ばしてきているが、見学や体験利用を希望される方の多くは利用者からの紹介がほとんどであった。

次年度も利用者のニーズを踏まえた活動を行えるようにコミュニケーションを図りながら利用者の安定利用に繋げていきたい。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定 員
男	20	0	0	20	19 / 日
女	26	2	0	28	
計	46	2	0	48	

イ 障害別状況（平成 25 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
48	0	0	1	0	0	48(1)

( ) 内は重複障害再掲

ウ 年齢構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	2	2	3	7	34	48	62.2 歳

## エ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
19	4	21	287	13.7	71.9%
	5	22	315	14.3	75.4%
	6	22	313	14.2	74.9%
	7	22	316	14.4	75.6%
	8	21	307	14.4	76.9%
	9	19	264	13.9	73.1%
	10	23	325	14.1	74.4%
	11	21	288	13.7	72.2%
	12	19	300	15.8	83.1%
	1	18	270	15.0	78.9%
	2	20	304	15.2	80.0%
	3	21	340	16.2	85.2%
		計	249	3,629	14.6

## オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
活動補助	128名
外出ボランティア	17名
陶芸	76名
音楽講師	65名
体操講師	103名

## 7 指定障害者居宅介護・移動支援事業『ガイドネットあいさぼーと』

本年度は、新規ヘルパーを4名確保することができた。また、一時活動を休止されていたヘルパーが復帰。しかし、土日祝祭日に活動可能なヘルパーは少ないままであるため、利用者のニーズに応え切れていない。

活動内容としては、通院・学校の送迎などが主であったが、最近ではピアノレッスンやコンサート、ウォーキングなどの余暇活動の依頼も加わり、全体の活動時間数が前年度より増加した。次年度も引き続きヘルパーの確保に努め、急な活動依頼でも対応できる体制づくりを図っていく。

## ア 障害別状況（平成25年3月31日現在登録者）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
58	2	0	5	1	1	60(7)

( )内は重複障害再掲

イ 障害程度区分（平成 25 年 3 月 31 日現在登録者）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
4	8	27	18	2	1	0	60

ウ 年齢構成（平成 25 年 3 月 31 日現在登録者）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
2	2	4	6	3	43	60	68.5 歳

エ 活動実績時間数

	平成 23 年度	平成 24 年度
移動支援（月平均）	201 時間	45.0 時間
同行援護（月平均）	90.7 時間	288.0 時間

## 8 指定相談支援事業『光和障害者相談センター』

本年度 4 月より光和寮内にて相談支援事業を開始した。名古屋市の計画相談の開始が 9 月末に受給者証の期限が切れる者から順に更新していくということで、第一四半期は、職員への研修や事業所への挨拶回り、福祉サービスを新規に利用する者への計画立案が主であった。8 月頃から、徐々に福祉サービスの継続利用の方からの依頼数が増えてきたため、地域の相談ニーズに応じていくためにも相談員の体制を 2 名から 3 名とした。また、12 月末には利用者数が 150 名弱となり、個人情報や利用情報の管理が困難になったため、1 月にパソコンによる相談支援システムを導入し情報の整理を行った。

ア 計画相談状況

	月	契約件数	利用計画作成	モニタリング
	4	0	0	0
	5	1	1	0
	6	3	3	1
	7	4	3	4
	8	17	2	7
	9	20	2	7
	10	35	18	9
	11	34	17	13
	12	33	29	21
	1	28	44	24
	2	52	35	28
	3	31	39	48
	計	258	193	162



## 明和寮 拠点

多機能型事業所	『明和寮』
就労継続支援事業B型	ビーサポート
就労移行支援事業	港ジョブトレーニングセンター
生活介護事業	ぷちとまと
福祉ホーム	『あかり』・『黎明荘』
相談支援事業	『明和障害者相談センター』
指定障害者居宅介護・移動支援事業	『みなとガイドネット』
地域活動支援事業	『地域活動支援センター あちえっとほーむ』
放課後等デイサービス	『わくわくキッズ』
相談支援事業	『港区障害者地域生活支援センター』
障害者就業・生活支援センター	『海部障害者就業・生活支援センター』

本年度より明和寮拠点は、相談支援事業の追加および全面福祉ホーム化（施設入所支援事業の転換）をした事業構成となった。

本年度は「3か年計画」の一年目として拠点の組織力強化を図るため組織を再編しスタートしたが、充分とはいえず次年度の課題となっている。

各事業の業績については年間を通じ大きな問題は無かったが、放課後等デイサービスや生活介護事業で稼働率の上昇に伴い、新たに活動スペース確保が問題となっている。

また、拠点の施設整備に関しては、計画していた作業棟の空調設備の更新や福祉ホームの居室改修を順次実施したが、作業棟トイレの改修や福祉ホームの内壁面タイルの剥がれ補修等予期せぬ修繕も多かった。老朽化に対してできるだけ計画的に改修を進めていく予定である。

### 1 就労継続支援事業B型『明和寮 ビーサポート』

本年度は東日本大震災から1年が経過し、まだまだ厳しい現状ではあったが予算に達する科もあれば、達しない科もあり明暗が分かれた年度になった。印刷科は12月の衆議院選挙の政権交代による印刷物減の可能性がある中、更なる営業活動やペーパーチップス作業の受注拡大等により予算を到達することができた。組立加工科は、細かい作業ではあるが受注が増加する取引先と年々減少する取引先がある中、新規作業の獲得により利用者への作業の安定提供ができた。自動車部品科は取引先からの作業依頼も多く、予算対比120%とよい状態で年間維持できた。包装加工科は、主要アイテムの取引先からの撤退や現状アイテムの出荷減少が響き、予算対比80%とかなり厳しい1年になった。平成25年1月から3月にかけて景気がやや上向きかけたことにより、売上が持ち直してきているので今後も新規アイテム獲得に努めていきたい。社

会貢献料は「きらっと one」終了からの自動販売機の設置が伸び悩み、予算対比 80% で 1 年が終了した。

また、年度末には在籍者の多い自動車部品科の体制変更に伴い、責任及び指示命令システムの明確化など内部体制の強化に取り組み、利用者が安心して利用できる事業づくりを進めた。来年度は更に作業の充実、売上アップ、利用者増を進めていきたい。

#### ア 賃金支払状況

事業				工賃(年間総支給額÷12)		
	男	女	計	最高	最低	平均
印刷事業	8	2	10	118,646	26,013	73,861
組立事業	23	6	29	93,142	19,109	42,907
自動車部品事業	39	10	49	67,285	23,887	47,104
包装加工事業	11	1	12	118,971	32,175	67,552
社会貢献事業	1	1	2	108,277	23,862	66,070
計	82	20	102	—	—	47,543

#### イ 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	82	9	9	82	100
女	20	2	2	20	
合計	102	11	11	102	

#### ウ 障害別状況 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	計
16	64	0	26	14	0	102(18)

( ) 内は重複障害再掲

#### エ 障害程度区分 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
28	2	29	30	11	2	0	102

#### オ 年齢構成 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
3	6	15	23	27	28	102	50.0 歳

#### カ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
100	4	21	1,885	89.76	89.8%
	5	22	1,952	88.73	88.7%
	6	22	1,883	85.59	85.6%
	7	22	1,949	88.59	88.6%

	8	21	1,834	87.33	87.3%
	9	21	1,802	85.81	85.8%
	10	22	1,969	89.50	89.5%
	11	22	1,928	87.64	87.6%
	12	20	1,772	88.60	88.6%
	1	20	1,728	86.40	86.4%
	2	20	1,710	85.50	85.5%
	3	21	1,884	89.71	89.7%
	計	254	22,096	87.78	87.8%

#### キ ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数	備 考
行事協力	84	ライトハウス福祉まつり、納涼祭文化祭、ボランティア協力食事会
頭髪カット	3	
クラブ活動支援	130	詩吟、卓球、将棋、陶芸、切り絵、手芸、スケッチ

## 2 就労移行支援事業『明和寮 港ジョブトレーニングセンター』

本年度は訓練内容と定着支援の充実、運営の安定を目標に取り組んできた。訓練に関しては、個々の特性や状況変化に応じてカリキュラムにも変化をつけるとともに、訓練意欲向上のための受注作業も積極的に導入してきた。定着支援については、問題の早期発見・対応を意識し、企業訪問やOB会開催を行った。運営面については、目標の利用率には満たなかったものの、定着支援による補助金と成果に応ずる就労移行支援体制加算の最高基準達成により、予算を達成することができた。

今後は近年の利用者層の多様化や雇用動向、利用ニーズの変化に対応できるより魅力的な事業を目指し、チーム力UPと就労開発力UPに取り組んでいきたい。

#### ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	18	11	18	11	15
女	2	5	4	3	
計	20	16	22	14	

#### イ 退所後の進路

一般企業	就労継続A型	就労継続B型	利用期間満了	利用中止	合計
13	5	3	1	0	22

ウ 障害別状況 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	計
0	1	1	6	6	0	14

エ 障害程度区分 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
12	0	1	1	0	0	0	14

オ 年齢構成 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
1	6	6	0	1	0	14	29.4 歳

カ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者数 (名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率
15	4	21	387	18.42	122.8%
	5	22	404	18.36	122.4%
	6	21	373	17.76	118.4%
	7	22	347	15.77	105.1%
	8	21	292	13.90	92.7%
	9	20	301	15.05	100.3%
	10	22	323	14.68	97.9%
	11	22	244	11.09	73.9%
	12	19	200	10.52	70.1%
	1	20	201	10.05	67.0%
	2	20	194	9.70	64.7%
	3	21	206	9.80	65.3%
	計		251	3472	13.83

### 3 生活介護事業『明和寮 ぷちとまと』

ここ数年、1 日平均利用者 10 名を目標に活動してきた。10 月実績で初めて 10 名を超え、年間平均でも 10.1 名と、目標を達成することができた。年度当初から順調に新規利用者が増え始め、10 月には数値目標である年間新規利用者 5 名を獲得することができた。1 月にはさらに 1 名獲得した。

現在も現利用者からの利用日数増加希望や新規利用希望者からの問い合わせがあるが、手狭な活動スペースを考慮し見送っている状況である。12 月には利用者像と活動スペースから、適正と思われる定員 10 名(これまでは 20 名)へと定員変更を行った。

ぷちとまと開所 5 周年ということもあり、大阪まで一泊旅行へ出掛けることができ、家族間の交流を図ることができた。また、普段の活動ではなかなか見られない利用者

の一面を知ることができ、今後のサービス向上に繋げていく良い機会となった。

来年度は大きなインフラ整備が望めないが、室内レイアウトなどの見直しや改善を随時行っていく。

新規利用者確保が十分にできないため、日中活動のさらなる充実を目指し、既存の利用者の満足度を向上していくことによって現利用者数を維持していく。

#### ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	13	1	0	14	10 / 日
女	15	5	0	15	
計	28	6	0	29	

#### イ 障害別状況 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
3	21	0	13	2	0	29 ( 10 )

( ) 内は重複障害再掲

#### ウ 障害程度区分 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
0	0	0	6	3	4	16	29

#### エ 年齢構成 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	11	6	3	3	6	29	37.1 歳

#### オ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
20	4	20	185	9.25	46.2%
	5	22	207	9.41	47.0%
	6	21	208	9.90	49.5%
	7	21	198	9.43	47.1%
	8	20	191	9.55	47.7%
	9	19	185	9.74	48.7%
	10	22	224	10.18	50.9%
10	11	22	233	10.59	52.9%
	12	18	196	10.89	108.9%
	1	18	196	10.89	108.9%
	2	19	208	10.95	109.5%
	3	20	220	11.0	110%
	計	242	2,451	10.1	101%

#### 4 福祉ホーム『あかり』『黎明荘』

本年度 4 月より、明和寮の施設入所支援は福祉ホーム「あかり」に完全移行した。必要な方はヘルパーを利用して、居宅介護、外出介助などの支援を受けることとなった。年度初めは役所の手続きやヘルパーの調整などを中心に行い、利用者が安心して生活できるよう支援を行った。

設備面ではあかりの 2 室は全面改修を行なったが、全体的に老朽化が進んでおり、今後も継続して改修を進めなくてはならない。

##### ア 入退所状況（あかり）

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	18	13	1	30	40
女	7	3	1	9	
合計	25	16	2	39	

明和寮施設入所支援から 14 名が移行（本年度入所者に含む）

##### イ 障害別状況（平成 25 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
8	31	0	7	2	0	39（9）

（ ）内は重複障害再掲

##### ウ 障害程度区分（平成 25 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
2	0	11	18	6	2	0	39

##### エ 年齢構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計	平均年齢
0	0	3	8	14	14	39	54.4 歳

##### ア 入退所状況（黎明荘）

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	5	0	2	3	10
女	1	0	0	1	
合計	6	0	2	4	

##### イ 障害別状況（平成 25 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
1	3	0	0	0	0	4

##### ウ 障害程度区分（平成 25 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
0	0	1	1	2	0	0	4

## エ 年齢構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	0	1	1	2	0	4	49.0 歳

## 5 相談支援事業『明和障害者相談センター』

本年度 4 月より開設し、実際には 10 月から名古屋市の方のサービス等利用計画が必須となったこともあり、年度後期から本格的活動となった。港区とその近郊を中心に身体、知的、精神と 3 障害のサービス等利用計画の作成、一般相談を受けている。

予想以上に依頼の件数が多く、支給決定に間に合わせるように計画を作成、提出することに追われる実態がある。年明けには、相談員の増員も行った。

今後は、ご本人の本当のニーズを引き出し、それに沿った計画作成を目指していくことが課題である。

### ア 計画相談状況

	月	契約件数	利用計画作成	モニタリング
	4	0	0	0
	5	0	0	0
	6	2	0	0
	7	2	2	0
	8	9	2	2
	9	16	9	4
	10	19	16	9
	11	19	19	12
	12	25	19	21
	1	19	25	18
	2	28	19	24
	3	10	28	25
	計	149	139	115

## 6 指定障害者居宅介護・移動支援事業『みなとガイドネット』

視覚障害の方の支援の多くが、同行援護に移行したため移動支援の時間数が大幅に減り、同行援護が増加した。月によって若干の利用時間のばらつきはあるが、1 年を通して時間数の大きな変動はなかった。

事業所の立ち上げ初期からの管理者が定年退職し、管理者引き継ぎの年ともなった。十分な引き継ぎはできなかったが、新体制にて動き始めた。

昨年から取り組んでいる、コーディネート円滑化対策に取り組んできたが、十分に

は効果を出せなかった。来年度も引き続き対策を会議等で考えていく。

ア 障害別状況（平成 25 年 3 月 31 日現在登録者）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	視覚児童	その他	合計
24	34	0	2	1	0	61

イ 障害程度区分（平成 25 年 3 月 31 日現在登録者）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
7	0	15	16	8	9	6	61

ウ 年齢構成（平成 25 年 3 月 31 日現在登録者）

10代	20・30代	40代	50代	60代	70代以上	計	平均年齢
2	3	10	15	19	12	61	58.1 歳

エ 活動実績時間数

	平成 23 年度	平成 24 年度
重度訪問介護（月平均）	437.5 時間	409.5 時間
移動支援（月平均）	457.0 時間	70.8 時間
居宅介護（月平均）	140.0 時間	144.8 時間
同行援護（月平均）	308.0 時間	520.5 時間

## 7 地域活動支援事業『地域活動支援センター あちえっとほーむ』

障害者に創作的活動・社会適応訓練・レクレーション等の提供を地域活動支援事業として行っている。利用者ニーズを主とした講座の立案やボランティア等の外部との連携を強化し、柔軟な事業展開を目指す事を目標に事業を実施してきた。利用者のニーズ対応として定例会議にて新規利用者・既存利用者の活動内容報告をし職員間の情報共有、支援方法の検討をしてきた。

利用者の登録もある程度落ち着き、本年度は事業としての安定化を図ることを主軸に運営してきた。新法等の動きにより、地域活動支援事業が将来変化したとしても障害者の日中活動の場として安心して過ごせる場を今後も提供できるようにしていく。

障害種別では、社会の動きに応じ精神障害の利用希望も徐々に増加している。柔軟に対応をするようにしてきた。

年度初頭には活動ルームの改装も終え、今までよりも有効にスペースを活用できるようになった。今後も、さらに安全と環境に配慮していく。

また、活動専門のボランティアの枠を活性化させることで、利用者対応の充実にも取り組んだ。



ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度登録者	本年度解除者	期末在籍者	定員
男	58	4	0	62	19 / 日
女	46	3	0	49	
合計	104	7	0	111	

イ 障害別状況（平成 25 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
12	68	6	27	12	0	111(14)

( )内は重複障害再掲

ウ 年齢構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	7	23	21	19	41	111	48.3

エ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者数 (名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
19	4	21	375	17.6	92.6%
	5	23	400	17.4	91.6%
	6	23	407	17.7	93.2%
	7	23	395	17.2	90.5%
	8	22	397	18.0	94.7%
	9	21	354	16.9	88.9%
	10	24	394	16.4	86.3%
	11	23	392	17.0	89.5%
	12	20	338	16.9	88.9%
	1	20	340	17.0	89.5%
	2	21	349	17.5	92.1%
	3	22	376	17.1	90.0%
		計	263	4517	17.2

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数	備 考
講師	81	音楽、ピアフラワー、点字、太極拳
パソコン	606	
活動支援	354	
イベント支援	22	福祉祭り、交流フェスタ、外出訓練

## 8 放課後等デイサービス 『わくわくキッズ』

法改正の元、放課後等デイサービス（みなし）としてスタートをきったこの一年、新規の方の利用も順調に進みよい滑り出しとなった。利用者増に合わせてスタッフを2名増員、身辺介助にも適切にあたることができた。

夏休み期間中には週3回のペースで終日営業も実施。昼食を含めて長時間利用者と接することにより、今まででは見えなかった側面を見ることもでき、また家族のニーズにも応えることができたと感じている。この期間には、初めての試みとして高校生のボランティアが活動に参加した。

送迎はコースの見直しにより、行き・帰りの所要時間（特に帰り）が以前に比べて短縮できた。今後も安全な送迎に努めていく。

### ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度登録者	本年度解除者	期末在籍者	定員
男	26	3	1	28	10 / 日
女	8	7	3	12	
合計	34	10	4	40	

### イ 障害別状況（平成25年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
0	17	0	38	0	0	40(15)

（ ）内は重複障害再掲

### ウ 利用児童の学校別の人数：合計40名

港養護	南養護	港楽小	大手小	稲永小	正保小	東築地小	当知・高木小	惟信保	中学校
18名	4名	4名	2名	3名	2名	3名	各1名	1名	1名

### エ 利用状況

定員(名)	月	実施日	延べ利用者数(名)	1日平均利用者数(名)	利用率
10	4	21	246	11.7	117%
	5	22	283	12.8	128%
	6	21	273	13	130%
	7	22	262	11.9	119%
	8	21	214	10.2	102%
	9	20	244	12.2	122%
	10	23	280	12.2	122%
	11	22	245	11.1	111%
	12	19	220	11.6	106%
1	19	221	11.6	106%	

	2	20	233	11.7	107%
	3	21	245	11.6	106%
	計	251	2966	11.8	118%

#### オ ボランティア・講師活動状況

(ア)曜日別で参加・月の行事での参加・ツアー等の参加が主なもの。

(イ)講師としては、開所当時からキッドピクスの講師。

木曜日	一緒にピアノに合わせて歌う	女性 1名
金曜日	(講師として) キッドピクス(月2回)	女性 1名
水曜日	(講師として) 音楽療法(月1回)	女性 2名
月1回	人形を使って、一緒に歌う	男性 1名
年間で	ツアー・各月の行事参加	男女含む5~10名

## 9 相談支援事業『港区障害者地域生活支援センター』

本年度は自立支援法の一部改正に伴い、当センターも名古屋市から委託相談事業とともに、指定障害福祉サービス事業者(一般相談支援・特定相談支援・障害児相談支援)の事業指定を受けて事業開始する事となった。

相談者数は年間で353人(相談者の内訳は、身体障害者(児)は42%、知的障害者(児)は44%、重症心身障害者(児)は4%、精神障害者(児)は10%であり、障害者は84%、障害児は16%)、新規の相談者は137人であった。

昨年度より相談件数が増加した要因として、サービス等利用計画の作成に対する相談が増加した事が挙げられる。

名古屋市においては、サービス利用計画の作成が4月から順次必要となった為、利用者の混乱を招くことなく、全ての利用者にサービス利用計画の作成に対応できるよう関係機関で協議を行った。結果、自立支援協議会の個別ケース検討部会に区内8カ所の特定相談事業所職員が参加する事よっての連携強化、毎月の定例会における情報交換や自主勉強会の開催を行う事で3障害に対応できる体制を整えることができた。

港区障害者自立支援協議会では、定例会を3回(5月、9月、2月)、就労部会、研修部会(地区別の障害理解推進のための啓発の研修会を7月と11月に実施、港区全体を対象に障害理解を深める研修会を12月に開催)、個別ケース検討部会も計画通り開催する事ができた。

次年度は、障害者総合支援法への移行に伴い、難病等も障害福祉サービス対象者に含まれることとなり、障害程度区分の調査対応、サービス利用計画への対応も必要となる。当センターにおいても制度や難病患者等に対する理解を深め、利用者が安心して地域生活を送れるよう引き続き公的機関・医療機関・事業者との連携を深めていくことが必要となる。

ア 相談実績件数

月	訪問相談支援	外来相談支援	自立支援協議会	実績合計数
4	66 (2)	180 (0)	2	248 (2)
5	61 (1)	163 (0)	3	227 (1)
6	84 (1)	219 (0)	2	305 (1)
7	69 (1)	225 (0)	1	295 (1)
8	68 (1)	158 (0)	5	231 (1)
9	58 (1)	165 (0)	3	236 (1)
10	75 (1)	170 (0)	1	245 (1)
11	54 (1)	219 (0)	2	275 (1)
12	50 (1)	160 (0)	3	213 (1)
1	73 (1)	155 (0)	2	230 (1)
2	69 (1)	168 (0)	3	240 (1)
3	88 (1)	187 (1)	3	278 (2)
合計	815 (13)	2169 (1)	30	3014 (14)

( )内は視覚ピアカウンセラーによる支援を再掲 (ピアフラワー講座含む)

平成 24 年 4 月～25 年 3 月までの月平均相談実績件数

訪問相談 68 件 外来相談 180 件 協議会等の開催 2.5 回

外来相談支援には電話・電子メール等も含む。なお記載は 10 分以上の相談をカウント。

イ 計画相談実績件数

	月	契約件数	利用計画作成	モニタリング
	4	0	0	12
	5	0	0	14
	6	0	0	13
	7	2	2	13
	8	0	0	13
	9	2	3	13
	10	0	1	14
	11	0	0	16
	12	3	3	15
	1	2	2	12
	2	0	0	14
	3	1	1	14
	計	10	12	163

## 10 障害者就業・生活支援センター事業

### 『海部障害者就業・生活支援センター』

開設から6ヶ月余り、未だ圏域における明確な姿が打ち出せずいた。本年度は当センターがあるべき姿を明確にすると共に、関係機関との連携を更に密にすべく取り組みを進めた。

相談及び支援の状況は下記表の通りであるが、いろいろな相談ケースに対応していく中で、複数の機関との連携、情報共有の必要性と重要性を再認識しつつ、「支援対象者にとってより良い就業・生活とは何か？」を意識して支援にあたった。

未だ模索する部分も多々ある状況ではあるが、圏域における就業の一拠点としての認識は、関係者に進行形で広まっていると感じている。

#### ア 支援対象障害者に対する相談・支援件数(手段別) (件)

センターへの来所 (本人のほか、家族等も含む)	252
電話・Fax・E-mail (本人、家族等からの電話のほか、センターからの電話も含む)	862
職場訪問 (定着支援のほか、職場実習支援を含む)	200
家庭・入所施設への訪問	10
その他 (ハローワークへの同行訪問、各種手続きの支援、ケース会議への参加等)	148
合計	1,502

「その他」の具体的な支援内容

ハローワークへの同行(登録支援、求人検索、失業保険申請手続き etc)、失業保険説明会への同席、ケース会議、受給者証手続き、履歴書作成、事業所見学

#### イ 支援対象障害者に対する相談・支援件数(内容別) (件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他				合計
				発達障害	難病	高次脳機能障害	その他	
就職に向けた相談・支援	109	242	300	86	1	20	5	763
職場定着に向けた相談・支援	7	324	84	37	0	10	10	472
日常生活、社会生活に関する相談・支援	8	58	39	7	0	1	1	114
就業と生活の両方にわたる相談・支援	3	34	22	2	0	0	0	61
その他	10	33	43	5	0	1	0	92
合計	137	691	488	137	1	32	16	1,502

## 港ワークキャンパス 拠点

多機能型事業	『港ワークキャンパス』
就労継続支援事業A型	ライトハウス名古屋金属工場
就労継続支援事業B型	KAN食品開発センター
福祉ホーム	『みなと』
相談支援事業	『港ワーク障害者相談センター』

本年度のA型事業は、余分な支出を「下げる」、「しない」を合言葉に収支バランスを整えることと金属工場の体質を強化することを目標とし走り続けた一年であった。主に、材料素材の変更、職員配置の転換による効率化、従業員増による福祉収入のアップと生産体制の強化を行い、「減らすべきモノ」と「増やすべきモノ」の両側面からのアプローチにより昨年度以上に充実した事業内容であったといえる。また、B型事業においても職員のスキルアップや生産の効率化等、数字の結果以上の充実感があった。4月から新しく運営を開始した相談支援事業については、港区障害者地域生活支援センターと連携し手探り状態ではじめたものの実績等、良好な結果となっており来年度以降にも在宅利用者からの期待も高まっているところである。

### 1 就労継続支援事業A型『港ワークキャンパス』

#### < 金属工場 >

本年度量産を目指していた新規製品は、採用確定は得たものの稼動には至らず、数字としては、厳しい着地となった。特に数年来、金属工場の柱として支えていただいている取引先において、出荷数量、売上げともに微減ではあるものの、初の前年割れ（数量昨年対比97%・売上げ99%）を起こしたことは打撃となった。

営業活動は、金属工場の新規製品への取り組みと引き続き得意先様の数量確保を柱としながらも、セルフ委託事業である金山総合駅福祉の店売上げ増および主幹施設として参加他施設との関係性構築を目指し、開催時のレイアウト変更や月別企画商品コーナー設置、また、参加他施設間においてメーリングリストを立ち上げ等、数年先を見据えた取り組みを開始した。また、下請け仕事の確保等にも取り組んだが、成果は残せていない。

製造活動においては、昨年度取り組んだ材料費、不良率、段取り時間の低減をさらに継続し、標準化まで進められたが、職員の2ポジション制等、目指した課題については、結果を残せなかった。来期の新規製品量産へ向け、意識向上、作業能力向上、管理能力向上など、課題は多い。

< A型レトルト加工、糸こんにゃく加工、乾燥蒟蒻加工事業 >

採算性の悪かった糸こんにゃく加工からの撤退、レトルト加工は製造製品をある程度絞ることで、採算性の改善を試みたが結果は思わしくなかった。来期は発注先との関係性改善をはじめ、加工賃や製造体制を見直した上、継続可能な事業なのかを見極める1年と位置づける。

#### ア 賃金支払状況

科目	在籍者			工賃（総支給額÷12）		
	男	女	計	最高	最低	平均
就労継続支援A型	60	3	63	164,134	77,874	104,924

#### イ 入退所状況

性別	前期末在籍者	入所者	退所者	期末在籍者	定員
男	62	5	7	60	60
女	3	0	0	3	
計	65	5	7	63	

#### ウ 障害別状況（平成25年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	計
6	27	2	25	3	4	63(4)

( )内は重複障害再掲

#### エ 障害程度区分（平成25年3月31日現在）

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
49	6	6	2	0	0	0	63

#### オ 年齢構成（平成25年3月31日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	9	14	14	19	7	63	43.6歳

#### カ 利用状況

定員(名)	月	実施日	延べ利用者数(名)	1日平均利用者数(名)	利用率
60	4	21	1258	59.9	99.8%
	5	22	1290	58.6	97.7%
	6	22	1321	60.0	100%
	7	22	1337	60.7	101.2%
	8	21	1200	57.1	95.2%
	9	21	1203	57.2	95.4%
	10	22	1276	58.0	96.6%
	11	22	1267	57.5	95.9%

	12	20	1159	57.9	96.5%
	1	20	1159	57.9	96.5%
	2	20	1155	57.5	96.2%
	3	21	1238	58.9	98.2%
	計	254	14863	58.5	97.5%

## 2 就労継続支援事業B型『港ワークキャンパス』KAN 食品開発センター

突発的受注が落ち着きを迎える中、「パンですよ！」は賞味期限 5 年が定着し防災市場へ大きくシフトし全国区的扱いを受ける状況となった。この結果、製造ラインはこれまで続けてきた増産体制自体を通常体制へ整え直し、工場を拡張し利用者の安全を優先しつつ、前年度に近い 148,000 千円を売り上げ、A 型依存体質から B 型独立採算の方向へ進んでいる。

また、本年度後半で従たる事業所「かんせい工房」の整備が進み、次年度より定員 40 名へ移行し、レトルト加工を A 型事業から吸収しながらパン缶等を利用した食品中心の事業を模索しながら進め、優先課題である利用者募集と平行して次年度は B 型事業のさらなる飛躍の年と考えている。

### ア 賃金支払状況

科目	在籍者			工賃（総支給額 ÷ 12）		
	男	女	計	最高	最低	平均
就労継続 支援 B 型	11	12	23	73,895	35,228	53,296

### イ 入退所状況

性別	前期末在籍者	入所者	退所者	期末在籍者	定員
男	9	4	1	12	20
女	12	0	1	11	
計	21	4	2	23	

### ウ 障害別状況（平成 25 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	計
6	7	2	12	2	0	23(6)

（ ）内は重複障害再掲

### エ 障害程度区分（平成 25 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
11	1	5	4	2	0	0	23



### 才 年齢構成 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
2	5	1	7	3	5	23	41.1 歳

### 力 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
20	4	21	343	16.3	81.6%
	5	22	365	16.5	82.5%
	6	22	361	14.4	82.0%
	7	22	356	16.1	80.5%
	8	21	340	16.1	80.9%
	9	21	351	16.7	83.5%
	10	22	366	16.6	83.1%
	11	22	362	16.4	82.2%
	12	20	336	16.8	84.0%
	1	20	341	17.0	85.2%
	2	20	358	17.9	89.5%
	3	21	391	18.6	93.1%
	計		254	4270	16.7

## 3 福祉ホーム『みなと』

地域（施設行事、イベント、コンビニ等）の情報提供を掲示板や呼びかけにより積極的に行い、より過ごしやすい生活ができるよう努力をしてきた。施設に対するクレームや問題も無く、無事に過ごせた1年であったといえる。また本年度は初めて女性の入居受入れを行い、個別対応をする等の支援を行った。

### ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	19	1	2	18	20
女	0	1	0	1	
合計	19	1	2	19	

### イ 障害別状況 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
4	12	0	2	0	1	19

ウ 障害程度区分（平成 25 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
10	1	5	2	1	0	0	19

エ 年齢構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	2	4	3	5	5	19	48.2 歳

#### 4 相談支援事業『港ワーク障害者相談センター』

本年度より始まった相談支援事業だが、10 月からの受給者証の更新の方を中心にご本人からの直接の依頼が多く、港ワークキャンパスの利用者ではない地域の方々の相談が中心である。（港ワークの利用者は 13 名）今後は、地域の事業所との連携強化や業務効率化などをしていきたい。相談内容の中では緊急時の短期入所の利用、将来の生活の場についての相談が多かったが、港区内、近隣に短期入所、グループホームなども少なく必要な時にスムーズに利用ができる準備を行うことが難しく感じている。

ア 計画相談状況

	月	契約件数	利用計画作成	モニタリング
	4	1	0	0
	5	2	1	0
	6	1	2	2
	7	2	1	3
	8	0	2	4
	9	12	0	4
	10	10	12	3
	11	14	8	4
	12	12	13	5
	1	13	12	5
	2	9	13	8
	3	28	8	20
	計	104	72	58

## 緑風 拠点

就労継続支援事業B型 『緑風』  
 相談支援事業 『りよくふう障害者相談センター』

平成23年度に名古屋市から事業を引き継ぎ、利用者8名でスタートした緑風だが、積極的な広報活動が効果を上げて新規利用者も増え、本年度末には利用者数が30名となった。利用者の増加と共に収支も安定しつつあり、この一年で今後のステップアップに向けた基礎固めができたと考えている。

3月には法人内で6番目となる指定相談支援事業所を開設した。(りよくふう障害者相談センター)

### 1 就労継続支援事業B型 『緑風』

年度初めには80%前後だった月毎の利用率も2月には初めて100%を超えた。以後も安定しており、施設内にも活気が溢れるようになった。次年度中には定員を40名に変更する予定であり、さらなる発展を目指す。

利用者の障害種別をみると、身体障害が主となる方が全体の44%であり、光和寮や明和寮の利用者像と比べて知的障害や精神障害の方が多傾向にある。

また、他法人の日中活動施設(生活介護や精神のデイケア等)を併用して利用される方もいるため、週に2、3日の利用や午後だけの利用など多様な就労パターンがみられる。今後もそれぞれの望む生活スタイルを尊重し、「あなたらしい就労の場」を提供する。

作業については、増加する利用者に対応すべく作業量の確保に追われた年となったが、以前からの「清掃用具の組付け加工」「DM用チラシ作業」の拡大に加えて「洗濯物の畳み作業」等を開始し、工賃アップに向けての作業量確保と多様化に努めることができた。

#### ア 工賃支払状況 在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者			工賃(年間総支給額÷12)		
	男	女	計	最高	最低	平均
軽作業科	25	5	30	19,544	1,219	9,719

#### イ 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	13	12	0	25	20
女	3	2	0	5	
計	16	14	0	30	

ウ 障害別状況（平成 25 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
1	14	0	16	4	0	30(5)

( )内は重複障害再掲

エ 障害程度区分（平成 25 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
7	1	7	12	3	0	0	30

オ 年齢構成（平成 25 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
1	5	7	9	6	2	30	41.1 歳

カ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
20	4	21	300	14.0	71.0%
	5	22	361	16.0	82.0%
	6	22	354	16.0	82.0%
	7	22	367	16.8	84.0%
	8	21	388	18.4	92.0%
	9	20	368	18.4	92.0%
	10	23	433	19.0	95.0%
	11	22	417	19.0	95.0%
	12	20	398	19.9	99.5%
	1	20	399	19.9	99.5%
	2	20	420	21.0	105.0%
	3	21	444	21.0	105.0%
		計	254	4649	18.3

キ ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数
作業支援	125 名
レク介助	12 名

## 2 相談支援事業『りよくふう障害者相談センター』

本年度 3 月に事業を開始したばかりで戸惑う場面も多かったが、各方面のご助力のおかげで大過なく 1 ヶ月が経過した。

千種区内では最初の指定相談支援事業所ということで千種区障害者地域生活支援センターをはじめとして多くの事業所から問い合わせを頂くことができた。次年度に

は多くの相談が予想されるので、地域の要望にしっかり応え、頼られる存在になるよう事業を進める。

ア 計画相談状況

	月	契約件数	利用計画作成	モニタリング
	4	-	-	-
	5	-	-	-
	6	-	-	-
	7	-	-	-
	8	-	-	-
	9	-	-	-
	10	-	-	-
	11	-	-	-
	12	-	-	-
	1	-	-	-
	2	-	-	-
	3	6	4	0
	計	6	4	0

## 戸田川グリーンヴィレッジ

障害者支援施設	『戸田川グリーンヴィレッジ』
施設入所支援	
生活介護事業	
短期入所事業	『戸田川グリーンヴィレッジ』
相談支援事業	『戸田川障害者相談センター』

開設 2 年目、理学療法士の採用と相談員の増員によりショートステイの拡充に努め支援体制の強化を図り、栄養マネジメント計画・リハビリ計画を始め、新たな加算を取得した。途中 1 名の退所（肺炎による死亡）があり、稼働率平均は入所が 96.5%、生活介護が 111.4%、短期入所が 72.1%で推移し、入院する利用者は少なく、比較的安定した 1 年だった。

4 月初めには職員総数 50 名だったが、3 月末には 56 名となり、年間を通して職員の調整力やニーズ把握力向上が課題で、研修や事象の振り返りを通して職員育成、多職種協働による支援に努めた。外部・内部講師による障害理解の学習会も開催した。

利用者の意見を吸い上げる第一歩として満足度調査・嗜好調査に加えて新しく各部署職員から定期的に情報提供する場として 10 月から月 1 回昼の例会を開始した。

また、防災訓練等を年 3 回行ったが、津波対策は課題として残っている。

地域ニーズを鑑みて 4 月より開始した相談支援事業については、職員の努力によって地域相談という公益的役割を果たしたといえる。

### 1 障害者支援施設『戸田川グリーンヴィレッジ』

#### (1) 生活支援

個別支援計画を基本としたチームアプローチを実施し、月 2 回 4 名ずつのモニタリング会議と年間 4 回のケース検討会議を実施した。各利用者の個別活動等も生活スタイルに合わせて週間プランに反映できるよう 9 月から見直しを実施した。各職員が役割を意識しながら利用者支援にあたるよう班長・係長中心に職員育成に努めた。日々のケース記録は全職種で端末入力が徹底され、情報共有が迅速にできるようになった。

個別の介助方法の見直しを実施し、9 月にはマニュアルを作成し、3 月には見直しを行った。また、後半から居室環境整備の担当を定め、点検を開始した。

#### (2) 日中活動

新しい取り組みとして誕生日外出を行い、美術館・墓参り・帰省・外食と散歩など各々の目的での外出を担当職員等と実施した。毎週日曜日には 3 名前後の希望者と近くのショッピングセンターへ生活用品等の買い物外出支援を始めた。5 月から音楽療法士が男女別コーラス活動を開始した。

ピアノを寄贈いただいた牧野氏を招待して感謝状贈呈と音楽会を 4 月に行い、

また、開設当初からお世話になっている地域の方・定期ボランティアの方 28 名を招待しての食事会を 6 月に開催した。本年度から夏祭りを秋祭りに変更し、気候のいい時期に家族・地域の方と楽しいひと時を過ごした。

### ( 3 ) 事故報告・ヒヤリハット

安全対策委員会の集計では、事故が 162 件・ヒヤリハットが 60 件発生した。内容は服薬に関することや転倒、カテーテル事故がほとんどだった。転倒は環境整備や歩行支援方法の徹底を図ることで減少したが、服薬は利用者ご本人に協力を得ないといけない事象も多く課題が残る。7 月からは対象職員を絞り込んでの事故検証と振り返りを実施し、各職員の技量に合わせた介護・看護研修を行った。

### ( 4 ) 給食部門

個々に合わせた食形態と温度での提供に配慮しながら以下の内容で実施した。

本年度の嗜好調査は調理員が直接利用者に意見を聴くという形で実施、給食内容に反映しながら常に改善を続けている。東海北陸研究大会で「ひとりの幸せのために～お寿司のソフト食～」という題目で発表し、好評を博した。

#### <行事>

4月19日	和食バイキング	5月17日	洋食バイキング
7月19日	中華バイキング	9月20日	デザートバイキング
11月15日	手巻き寿司	2月21日	鍋物会
3月21日	ピザパーティ		

#### <他部署との企画>

6月21日	ボランティア感謝の食事会	9月4日	炊き出し訓練(α米使用)
12月22日	クリスマス会	1月28日	還暦祝い

#### <会議>

4/26、10/31	給食会議	10/31、3/21	厨房内会議
------------	------	------------	-------

#### <その他>

10月16日 中川保健所による指導検査  
12月頃～ 嗜好調査

### ( 5 ) 看護部門

5 月から理学・作業療法士による個別リハビリを開始し、8 月には入所者全員を対象とした個別リハビリが実施できた。また 5 月からセラピスト中心で、歩行リハビリを開始し 8 月からは毎週 1 回実施している。

また、7 月からセラピスト・看護師の合同会議も月 1 回開催し、8 月からは月 2 回職員向けに看護教育を開始した。

ア 入退所状況

性別	期首在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定 員
男	24	0	0	24	40
女	16	1	1(死去)	16	
計	40	1	1	40	

イ 障害別状況(平成25年3月31日現在)

脳性まひ	脳障害後遺症	頸髄損傷	二分脊椎	化膿性脊髄炎	視覚障害	リウマチ
22	4	3	1	1	2	1
筋ジストロフィー	ハンチントン病	パーキンソン症候群	多発性硬化症	脊髄小脳変性症	知的障害 精神障害	合計
1	1	2	1	1	23	40(23)

( )内は重複障害再掲

ウ 年齢構成(平成25年3月31日現在)

	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
男	0	2	10	8	4	24	49.7歳
女	2	1	2	8	3	16	50.1歳
計	2	3	12	16	7	40	49.8歳

エ 障害程度区分別状況(平成25年3月31日現在)

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	1	2	5	32	40

オ 見学者受け入れ状況

月日	時間	見学者・団体名	人数
H24 6/13	10:30~11:30	名古屋市水道局・土木局職員	2名
7/25	10:30~11:30	港養護学校	2名
8/22	13:00~16:30	キリスト教社会館他	6名
8/29	10:00~11:30	港養護学校	2名
9/3	17:00~17:30	供米田中学校 教諭	1名
10/25	10:45~11:45	うろじ作業所	2名
10/25	10:30~11:30	ゆたか苑、きずなの会	2名
11/13	10:45~14:30	心身障害ホーム部会	36名
11/15	10:00~12:00	卒後対策連絡協議会	40名
11/15	10:00~15:00	愛厚希全の里	3名
11/27	10:30~11:30	厚生会館クリーニングセンター、 厚生会館第2保育園	2名
12/20		(有)信濃総合計画、(社福)墨友会	2名
H25 3/8	13:40~15:00	愛厚弥富の里	1名
合計			101名



## カ ボランティア活動状況

活動内容	活動回数	実人数	延人数	個人人数	団体名・人数
太鼓	1回	2名	2名	2名	
音楽会	1回	3名	3名	3名	牧野 裕さん他2名
パソコン講座	63回	2名	63名	2名	
組みひも	14回	5名	62名	0名	
除草・剪定	3回	4名	8名	4名	
車椅子ダンス	6回	5名	19名	0名	名古屋支部 5名(団)
昼食バイキング	4回	6名	19名	1名	組紐 5名(団)
歌謡舞踊	2回	2名	4名	0名	中川のさと2名(団)
サマーボランティア	4回	6名	18名	6名	
喫茶	1回	1名	1名	1名	
生活支援	14回	2名	14名	2名	
裁縫	3回	1名	3名	1名	
数珠玉・クラフト	11回	3名	22名	3名	
鍋物会	1回	11名	11名	1名	江松ひまわり会 5名(団)
					組紐 5名(団)
ギターコンサート	1回	1名	1名	1名	
ブルーベリー狩り	1回	2名	2名	2名	
秋祭り	1回	28名	28名	11名	組紐 4名(団)
					みつば会 7名(団)
					江松ひまわり会 6名(団)
クリスマス	1回	38名	38名	0名	供米田中学校(団)
ハンドベル演奏	1回	40名	40名	0名	富田作業所(団)
合計	133回	162名	358名	40名	内訳 7団体(103名) 個人(40名)

## 2 短期入所事業『戸田川グリーンヴィレッジ』

本年度は、ショートステイ対応機能拡充に向け、相談員の増配置を行った。利用率としては安定的に増加。実際の受け入れ対応職員はじめ、介護、看護、調理、事務等の全ての職員のスキルアップもあり、複雑なニーズへの対応力も向上しつつある。年度途中には、全職員対象にショートステイ受け入れの仕組みに関するアンケート調査を実施。今後も、できるところからの仕組み等の改善を目指し、支援力の向上につなげていく。

## ア 短期入所及び通所利用状況

		短期入所 利用人数	短期入所 利用延べ 日数	短期入所 利用相談 件数	短期入所利用新規登 録者数		通所利用 人数	通所利用 延べ日数
					市内	市外		
4月	男	18	148	11	1	0	3	7
	女	18			5	1	1	1
5月	男	18	142	8	2	0	4	8
	女	18			3	1	1	1
6月	男	23	144	14	6	1	4	10
	女	17			3	0	1	1
7月	男	21	182	6	2	1	2	3
	女	24			2	0	4	5
8月	男	22	183	4	0	1	1	1
	女	27			2	0	2	3
9月	男	26	175	7	1	0	1	1
	女	20			3	1	1	2
10月	男	25	177	8	2	0	2	2
	女	23			3	0	1	1
11月	男	24	205	6	1	0	2	3
	女	23			2	0	5	5
12月	男	24	213	1	0	0	2	3
	女	24			1	0	5	8
1月	男	22	185	2	1	0	0	0
	女	18			0	0	5	8
2月	男	24	212	2	1	0	2	2
	女	23			1	0	3	4
3月	男	18	169	2	0	0	4	5
	女	20			2	0	3	5
合計		520	2135	71	44	6	59	89

### 3 相談支援事業『戸田川障害者相談センター』

本年度契約数の内訳としては、地域からの相談が42件（うち支援センターからの紹介ケースが31件、関係事業所からの紹介ケースが4件、本人や家族が直接申し込んでこられたケースが7件）、戸田川グリーンヴィレッジ入所利用者が19件。制度の動きや変更の中身が、各々の利用者に周知徹底されないまま開始された経緯上、それぞれの利用者も、支援担当者も手探りでの動き出しとなった。

アセスメントによるニーズ把握の上の計画作成である筈が、受給者証の更新を目指

しがちになってしまっているケースもあった。深刻な状況を抱えているケース等、今後も継続的な支援が必要なケースも多数ある。こうした中川区の特色やニーズを踏まえ、地域に根差した相談支援事業所としては定着しつつある。

ア 計画相談状況

	月	契約件数	利用計画作成	モニタリング
	4	0	0	0
	5	0	0	0
	6	0	0	0
	7	2	0	0
	8	0	0	0
	9	5	0	0
	10	5	4	0
	11	10	1	0
	12	8	5	3
	1	10	4	4
	2	8	7	3
	3	13	5	4
	計	61	25	14

# 名古屋盲人情報文化センター

視覚障害者情報提供施設 『名古屋盲人情報文化センター』

平成 24 年度から 26 年度の「3 か年事業計画」の 1 年目として、方向性の確立を目指した 1 年であった。事業の活性化については、点字出版部に録音担当を配置し、音声版選挙公報や声の広報なごや区版等の準備を進めた。施設整備に関しては、非常時館内放送設備と連動させた電話機の取替を行った。

## 1 図書館事業部

### (1) 新貸出システム稼働他

貸出は、新貸出システムが稼働した。返却方法など変更があったが、事前の告知などを行なっていたこともあり、大きな混乱もなく概ね順調なスタートを切る事ができた。職員やボランティアさんの作業が大きく変化したので、その運用する為の指導を中心とした上半期であった。人海戦術で行なっていた作業が、システム化する事により、今まで職員が行なわざるを得ない作業をボランティアに任せられるようになった。目標としていた 3 ヶ月も掛らず、ボランティアに新システムの運用を任せられるようになった。今まで多く発生していた発送間違いも激減している。

その他、ゴールデンウィーク頃から 1 ヶ月以上サピエが停止し、利用者への発送ができずにいた事は、上半期大きな出来事である。

### (2) 図書館サービス

5 月から 7 月にかけて顧客満足度調査の方法や内容を会議で検討し、8 月には、サピエ個人会員 345 名を対象にしたアンケート調査を実施し 78 名より回答を得た。9 月以降に集計と分析をし、みちしお 2 月号で結果とご意見、ご要望の返答と共に発表した。

### (3) ボランティア育成

音訳は、養成講習会が始まり、去年の倍以上から選考し受講生も 5 割増しの 13 名となった。最終的に 10 名の方が受講を終了した。

ボランティア向けのテキストデイジー講習を初めて行なった。今後、9 名の方が活動して頂ける事となった。来年度も引き続き、講習を行う予定。

点訳は、本年度からフロッピーディスクから USB メモリでの納本が始まり、USB メモリ納本が定着してきた。

昨年度の養成講習受講者が 7 月末からグループ入りし、本格的に点訳活動を開始した。そのほとんど全員の方が最初の納本を終える事ができ、実力も順調にアップしている。

## ( 1 ) 蔵書

	点字図書		録音図書			
			テープ図書		C D図書	
	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
H22年度	9,812	34,113	8,465	48,916	5,725	5,692
H23年度	10,079	35,090	8,570	49,323	5,939	6,171
H24年度	9,151	31,314	7,346	41,792	6,975	6,977

## ( 2 ) 新規製作図書

## 蔵書

	点字図書		C D図書
	タイトル数(内 リクエスト)	冊数	タイトル数(内リクエスト)
H22年度	234(26)	866	143(36)
H23年度	251(6)	917	195(35)
H24年度	215(9)	851	191(38)

## 雑誌

	点字		録音(テープ)		録音(C D)	
	月刊	隔月	月刊	隔月	月刊	隔月
H22年度	2タイトル	-	0タイトル	12タイトル	84タイトル	12タイトル
H23年度	2タイトル	-	-	-	84タイトル	18タイトル
H24年度	2タイトル	-	-	-	84タイトル	18タイトル

## プライベート

	点字図書		C D図書
	タイトル数	冊数	タイトル数
H22年度	104	139	12
H23年度	85	101	10
H24年度	73	94	11

## サピエータアップ状況

	点字データ		デジータ	
	アップタイトル 数	アップ巻数	アップタイトル 数	アップ時間
H22年度	353	1,434	498	4,289時間 14分
H23年度	389	1,575	1,033	8,669時間 40分
H24年度	391	1512	812	6,786時間 38分

( 3 ) ボランティア養成

点訳ボランティア

	点訳者養成	フォローアップ講習	英語点訳
H22年度	-	1講座13回 延べ208名	-
H23年度	1講座15回 延べ209名	1講座22回 延べ308名	1講座23回 延べ161名
H24年度	-	1講座21回 延べ294名	1講座23回 延べ161名

音訳ボランティア

	音訳者養成講習	音訳技術 フォローアップ講習	校正者養成講習 (フォローアップ)	プリントエディター 養成講習
H22年度	22回 198名	14回 125名	-	2回20名
H23年度	21回 153名	8回 50名	1回11名	-
H24年度	22回 244名	10回 68名	1回21名	-

	音訳学習会	各種専門講習	ボランティア向け プレストーク操作講習
H22年度	7回301名	39回770名	5回28名
H23年度	7回313名	54回816名	11回65名
H24年度	7回272名	30回646名	6回39名

( 4 ) 貸出

登録者

	個人(内・サピエ)	団体
H22年度	2,464(335)	556
H23年度	2,482(504)	551
H24年度	2,319(410)	473

利用者

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者
H22年度	170	4,022	252	8,325	648	23,679
H23年度	175	4,143	193	4,507	650	23,699
H24年度	526	4,697	321	3,987	1,040	32,376

当期より貸出システム導入により厳密な集計に改善したため、従前と差異が発生

## 資料貸出

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
H22年度	4,317	7,228	9,143	30,279	31,654	31,709
H23年度	4,449	6,745	4,901	17,084	28,324	28,505
H24年度	4,697	8,400	3,987	15,113	32,376	32,420

## オンラインリクエスト

	リクエスト送信数(施設)	リクエスト送信数(個人借受)	リクエスト送信数	リクエスト受信数
H22年度	5,325	3,186	8,514	5,097
H23年度	4,402	2,629	7,031	4,381
H24年度	2,663	3,610	6,273	6,251

## コンテンツ利用状況集計(点字データ)

	ダウンタイトル数	ダウン巻数	ダウン実利用者	ダウン延べ利用者
H22年度	11,296	48,186	205	23,750
H23年度	12,859	52,752	208	25,260
H24年度	13,409	54,244	215	25,330

## コンテンツ利用状況集計(デジタルデータ)

	再生タイトル数	再生時間	再生実利用者	再生延べ利用者	ダウンタイトル数	ダウン時間	ダウン実利用者	ダウン延べ利用者
H22年度	1,238	1,484時間 53分	30	3,108	7,921	71,440時間 40分	209	17,883
H23年度	2,781	2,878時間 6分	33	6,597	14,140	117,518時間 52分	265	45,207
H24年度	2,542	2,453時間 8分	31	6,225	16,536	133,534時間 21分	274	76,005

## デジタルオンライン

	A会員		B会員		合計	
	実利用者数	登録タイトル数	実利用者数	登録タイトル数	実利用者数	登録タイトル数
H22年度	-	-	-	-	-	-
H23年度	3	11	0	0	3	11
H24年度	1	4	0	0	1	4

(5) 情報提供

	ホームページ 訪問者数	テレビ サービス	電話レ (中日春秋)	新聞 点訳	バリアフリー 映画会	メール マガジン
H22年度	14,651件	2,217件	1,210件	27名	6回 212名	358件
H23年度	3,039件	2,064件	終了	29名	6回 257名	373件
H24年度	7,521件	907件	終了	29名	6回 266名	485件

	点字出力 サービス	対面読書 サービス	代筆・墨 訳サービス	利用者向けプ レクスト ク個人講習	利用者向けプ レクストク操作体 験会
H22年度	4,750枚	12件	21件	19回 19名(18名)	5回 62名
H23年度	32,000枚	16件	23件	31回 31名(19名)	2回 19名
H24年度	11,430枚	18件	20件	6回 6名(5名)	5回 34名

カッコ内実人数

## 2 点字出版事業部

昨年度から引き続き、児童書・名古屋市史・地下街マップ・らしんばん、の4つのワーキンググループを作ったが、新しい発行物を出すことはできなかった。衆議院選挙においては日盲委選挙情報プロジェクトに参加し点字・音声共に迅速に発送できた。

次年度から新規受注の声の広報なごや区版においては、各区ボランティア向けの技術講習等を行い製作体制の強化を図ることができた。

### (1) 点字出版物製作

#### オリジナル出版

	月刊誌 やまびこ	その他 出版物 (点字版)	その他 出版物 (録音版)	グリーティング カード	年賀状 点図シール	一筆箋	エコ バッグ
H22年度	1,267冊	14タイトル	134タイトル	165枚	1,416枚	176冊	236枚
H23年度	1,190冊	25タイトル	885タイトル	178枚	1,695枚	94冊	72枚
H24年度	1,191冊	8タイトル	427タイトル	114枚	1,411枚	117冊	33枚

#### 受注製作物(定期刊行物・点字教科書)

	名古屋市(広報なご や・市会だより)	他市町村 (広報とよた)	生活情報誌 らしんばん	点字教科書
H22年度	印刷 253,944枚	印刷 13,364枚	印刷 88,273枚	生徒5名 12科目
H23年度	印刷 253,382枚	印刷 14,958枚	印刷 94,945枚	生徒1名 1科目
H24年度	印刷 240,337枚	印刷 13,603枚	印刷 80,959枚	生徒0名 0科目



### その他受注製作物

	名古屋市 (行政資料 等)	施設・団体 (資料等)	一般企業 (資料・ムー 等)	選挙情報(名 簿・投票用 紙・公報)	公共料金明細 (電気・ガ ス・水道)	点字 名刺
H22年度	10件 73,053枚	27件 48,597枚	15件 185,550枚	38件 315,628枚	印刷 7,342枚	130名 19,506枚
H23年度	16件 92,699枚	37件 111,109枚	22件 49,806枚	59件 21,609枚	印刷 7,839枚	141名 19,301枚
H24年度	15件 67,060枚	44件 31,494枚	27件 157,288枚	26件 237,147枚	印刷 7,102枚	167名 21,629枚

### (2) 点字技術支援(点字サイン・UV加工等)

	点字案内板・ プレート	鉄道駅構内触 図案内板	鉄道駅 手すり案内板	鉄道駅 運賃表	タクシー 車内シール	UV加工
H22年度	3,000枚	25駅50枚	29駅465本	100駅162冊	1,593枚	57点
H23年度	2,620枚	19駅30枚	27駅306本	3駅4冊	71枚	56点
H24年度	3,265枚	6駅10枚	14駅279本	3駅3冊	424枚	62点

## 3 サービス事業部

視覚障害者の生活を豊かにする為、MAJ講座をはじめ、料理教室、ITサポート、便利グッズの紹介・販売を行った。また、視覚障害に関する啓蒙・啓発活動として福祉実践教室などへの講師派遣や体験、見学の受入を積極的に行った。

### (1) 社会参加・活動支援

#### 相談支援

	相談支援		合 計
	継続支援(件)	新規支援(件)	
H22年度	30	93	123件(実人数184人)
H23年度	66	112	178件(実人数109人)
H24年度	91	134	225件(実人数120人)

	生活	工 業 ク レ ジ ョ ン	就 労	学 業	ピ ア カ	家 族	ロ ビ ン ジ ョ ン	移 動	そ の 他	計 (件)
H22年度	45	30	42	8	58	5	15	14	26	243
H23年度	53	25	22	1	74	9	3	7	16	210
H24年度	65	16	26	5	93	9	2	9	32	257

\* 相談内容によって複数の項目でカウント

中途失明者緊急生活訓練事業

	点字触読指導				料理・お菓子教室	
	人数	うち 新規	回数	自主受講	延べ人数	講座数
H22年度	21	5	43	16名	80名	12
H23年度	20	8	43	15名	87名	12
H24年度	19	5	46	12名	71名	12

(2) ガイドヘルパー養成講習会

	ガイドヘルパー養成			ガイドボランティア指導		
	講座数	延回数	受講者数	講座数	延回数	受講者数
H22年度	2	8	30	4	5	42
H23年度	休止	休止	休止	休止	休止	休止
H24年度	2	10	56	3	3	14

(3) IT訓練支援

	相談 (延人数)	ネットサポート	個人指導	集団指導	ITバス
H22年度	547	3	156	5	10
H23年度	729	2	191	6	サービス終了
H24年度	781	11	560	210	サービス終了

(4) 地域支援

	講師派遣等			見学対応		
	福祉実践	講義	計	小中高等学校	その他施設	計
H22年度	12	26	38件	5件	14件	19件 211名
H23年度	11	17	28件	10件	6件	16件 165名
H24年度	8	16	24件	1件	18件	19件 129名

(5) MAJ(みんなあつまれ情文へ)講習

	回数	延べ人数
H22年度	37回	239名
H23年度	34回	166名
H24年度	10回	72名

## (6) 用具サービス

	読書支援機器			
	ブックトーク(録音・再生)PTR2	ブックトーク(再生専用)PTN1 /PTN2	拡大読書器	小型ブックトーク PTP1・リンクレット
H22年度	88	45	74	45
H23年度	57	81	52	65
H24年度	42	61	55	65

	歩行・情報支援機器			
	白杖	ソフト1位	ソフト2位	ソフト3位
H22年度	418	PC-Talker(36)	ネットリーダー(30)	MyMail (24)
H23年度	459	PC-Talker(21)	ネットリーダー(19)	MyMail (18)
H24年度	488	PC-Talker(35)	ネットリーダー(21)	MyMail (20)

## 4 利用者及び地域住民との交流事業

5月20日には視覚障害者用具展を開催し、300名を超える方々が来館された。特に誘導用ロボットは人気があった。

10月28日には恒例の港区ふれあい広場に参加し、バザーのほか、点字・録音体験コーナーを設け地域住民との交流や啓蒙活動を行った。

11月15日には交流会を開催し、常滑のINAXミュージアムや中部国際空港を訪ね、バス2台81名の参加で利用者、ボランティア、職員との交流を深めた。

## 5 関係団体との連携事業

全国視覚障害者情報提供施設協会(全視情協)、日本盲人社会福祉施設協議会、中部ブロック点字図書館等連絡協議会等の会員として、会議、研修会などに積極的に参加した。特に、10月18日、19日に開催された全視情協名古屋大会においては主管館として準備を行った。

名古屋市視覚障害者協会(名視協)、名古屋盲学校、名古屋市総合リハビリテーションセンター、愛知障害者職業能力開発校、愛知視覚障害者援護促進協会、東海音訳学習会など中部地区の関係団体と密接に連携し、視覚障害者の文化・福祉向上に貢献した。9月2日に開催された視覚障害者のラテンバンドアンサンブル・アミーのコンサートには、ボランティアを派遣し開催に協力した。

職員・ボランティア等

	職員		ボランティア			
	職員総数	内・視覚障がい者	音訳関係	点訳関係	その他	合計
H22年度	23	8	163	122	40	325
H23年度	22	7	146	126	37	309
H24年度	20	7	151	120	34	305

	ご寄付			
	個人	団体	～10万円	10万円～
H22年度	101	11	107	5
H23年度	49	4	51	2
H24年度	54	7	57	4

## 瀬古マザー園

介護老人福祉施設	『特別養護老人ホーム 瀬古第一マザー園』
盲養護老人ホーム	『瀬古第二マザー園』
高齢者通所介護事業	『瀬古マザー園デイサービスセンター』
”	『矢田マザー園デイサービスセンター』
短期入所生活介護事業	『瀬古マザー園短期入所生活介護事業所』
居宅介護支援事業	『瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所』
ふれあいセンター	『瀬古平成会館』

介護報酬改定に伴う減収幅は、新たな加算の取得を目指した業務体制の見直しや、新規利用者の獲得に向けた対策など収入増加への取組みにより小幅に止まっていたが、介護老人福祉施設において12月頃からの発熱と肺炎による入院者の続出が響き、大幅な減収を余儀なくされるに至った。次年度は、本年度の経験を活かした安定的な事業運営を目指す。

人材育成面については、マザー園は従前から研修制度が整っており、内容的にも年々充実してきている。現在、ケア体制の遅れが指摘されている認知症高齢者に対する研修の充実に取り組んでおり、さらに研修内容を見直して次年度へと繋げていく。

施設環境整備の面では、本年度は利用者家族の要望に沿った談話室の新設、亡くなられた利用者の遺志を受け継いだモニュメントの設置工事などを実施した。

また、本年度は給湯管の破損により建物地下への漏水事故が発生し応急措置を執ったが、この事故を契機として次年度は給湯管の更新工事を順次計画的に実施していく。

### 1 特別養護老人ホーム 瀬古第一マザー園

本年度の利用率は91.9%（前年度95.8%）で前年度マイナス3.9%であった。利用者の高齢化や心身機能の重度化により医療機関への通院・入院の長期化が常態化する中で、特に年末・年始に風邪症状利用者が多数発生したことに伴う入院者の急激な増加が利用率に大きく影響してしまった。これらの介護報酬減収に対処していくため、本年度は介護報酬増収に向けた取組みとして「加算取得検討プロジェクトチーム」を立ち上げた。加算取得要件を満たすための研修等への派遣や、誤嚥性肺炎による入院者を防ぐ為歯科医師の定期往診体制を整備し歯科医師との連携強化を図った。次年度は「口腔機能維持管理加算」の算定を目指していく。

#### ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	入所者	退所者	期末在籍者	定員
男	13	5	6	12	60
女	46	11	11	46	
計	59	16	17	58	

イ 要介護度状況 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計	平均 要介護度
1	6	14	24	13	58	3.7

ウ 施設利用状況

定員 (名)	月	延べ利用者数(名)	1日平均利用者数(名)	利用率(%)
60	4	1747	58.2	97.0%
	5	1777	57.3	95.5%
	6	1694	56.4	94.1%
	7	1774	57.2	95.3%
	8	1763	56.8	94.7%
	9	1733	57.7	96.2%
	10	1820	58.7	97.8%
	11	1710	57.0	95.0%
	12	1546	49.8	83.1%
	1	1492	48.1	80.2%
	2	1440	51.4	85.7%
	3	1661	53.5	89.3%
	年間		20157	55.1

## 2 盲養護老人ホーム 瀬古第二マザー園

本年度は盲養護老人ホームとして、専門的なサービス提供や業務体制の在り方の再構築、利用者の方々が心身共に安心して安全に生活できる環境づくりを目標に掲げ取り組んできた。

取組みとしては、利用者一人ひとりを正しく理解し、そのことを専門的な業務に活かすため、各種関連機関や団体の研修等への積極的な参加、また事業計画・行動計画の取組内容の全職種間の共有、個別支援計画の改訂や形骸化したサービスの見直しを進め、それらを通じ援助の在り方を考え改善してきた。

利用希望者については、ここ数年減少傾向にあり特に上半期では一時欠員を生じることもあったが、関係諸機関への広報活動を行ったことが功を奏し、下半期には利用希望者の増加に結びついた。

次年度も従来のやり方にとらわれず、利用者ニーズを的確に引き出し、一人ひとりに応えていけるようサービス向上に努めるとともに、利用者確保に向けた取組みを継続し、適切なサービス提供や施設運営ができるよう取り組んでいく。

## ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	入所者	退所者	期末在籍者	定員
男	17	5	5	17	50
女	33	5	5	33	
計	50	10	10	50	

## イ 施設利用状況

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
初日在籍者	50	49	48	49	50	50	50	50	50	50	50	50	—
入 所	1	0	1	2	0	1	1	2	0	1	1	0	10
退 所	2	2	0	0	1	0	1	2	0	1	1	0	10

## ウ 視覚障害等級別状況

1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	計
34	12	3	0	1	0	50

## エ 要介護度状況 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

自立	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
35	0	1	5	5	3	1	0	50

## 3 高齢者通所介護事業

### (1) 瀬古マザー園デイサービスセンター

本年度年間延べ利用者 5,631 名(前年度 6,181 名) 1 日平均利用者数 18.3 名(前年度 20.2 名)となった。本年度の年間稼働日は従来休業していた 12 月 29 日を稼働日とし 308 日稼働としたが、当初は定期的に行っていた居宅介護支援事業所訪問が下半期ほとんど行えず利用者確保に繋げることができなかった。これにより本年度はここ数年の間で一番の利用者数の落ち込みとなり、収入は前年度比 89%とかなりのダウンとなってしまった。

次年度は瀬古デイの立て直しを図るため個別機能訓練加算取得に取り組む等サービスの充実を図り、これを軌道に乗せると共に利用者確保のため積極的に利用者、関係機関に P R して安定した運営に繋げていきたい。また各利用者のニーズに合わせた対応を実施するなどし、更に喜んでいただけるデイサービスを目指し取り組んでいく。

## ア 利用登録状況

性別	前期末在籍者	登録者	解除者	期末在籍者	定員
男	12	0	6	6	30 / 日
女	38	4	0	42	
計	50	4	6	48	

## イ 要介護度状況 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
1	7	11	15	9	5	1	48

## ウ 施設利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者数(名)	1日平均利用者数 (名)	利用率
30	4	25	484	19.4	64.5%
	5	27	489	18.1	60.4%
	6	26	475	18.3	60.9%
	7	26	451	17.3	57.8%
	8	27	503	18.6	62.1%
	9	25	472	18.9	62.9%
	10	27	487	18.0	60.1%
	11	26	477	18.3	61.2%
	12	25	438	17.5	58.4%
	1	24	435	18.1	60.4%
	2	24	447	18.6	62.1%
	3	26	473	18.2	60.6%
	計	308	5,631	18.3	60.9%

## (2) 矢田マザー園デイサービスセンター

本年度年間延べ利用者は 6,401 名 (前年度 6,182 名)、1 日平均利用者数 20.7 名 (前年度 20.1 名) で前年比 103.5% であった。また、収入は対前年比約 10% 強増で、新規の利用者も 36 名の方が利用開始となった。

本年度は介護保険法の改正が行われ、当初は介護報酬の減収が心配されたが、4 月からサービス時間の延長を行うことにより新規利用者の増加を図り増収へ繋げることができた。

本年度の行動計画では、「選択されるデイサービス」を目指したサービスメニューの充実や利用者確保に向けた取組み等、利用者に喜んで頂けるデイを目標に取り組んできた。上半期においては前年度並みの利用者数であったが、下半期は利用者数が増加に転じた。また、新しいメニューの開発では新規のボランティアによるレクリエーションなども取り入れると共に業務全体の見直しも実施してきた。



次年度は行動計画にもあげた新たな加算取得を目指し努力を重ねるとともに、利用者に喜んで頂ける環境づくりのために努力していきたい。

#### ア 利用登録状況

性別	前期末在籍者	登録者	解除者	期末在籍者	定員
男	13	6	5	14	30 / 日
女	48	30	25	53	
計	61	36	30	67	

#### イ 要介護度状況 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
5	12	13	18	11	6	2	67

#### ウ 施設利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者数(名)	1日平均利用者数 (名)	利用率
30	4	25	494	19.76	65.8%
	5	27	508	18.7	62.7%
	6	26	517	19.8	66.2%
	7	26	558	21.4	71.5%
	8	27	551	20.4	68.0%
	9	25	508	20.3	67.7%
	10	27	587	21.7	72.4%
	11	26	575	22.1	73.1%
	12	25	516	20.6	68.8%
	1	24	501	20.8	69.5%
	2	24	513	21.3	71.1%
	3	26	573	22.0	73.4%
	計	308	6401	20.7	69.2%

## 4 瀬古マザー園短期入所生活介護事業所

本年度の利用率は 78.7% (前年度 78.6%) で前年度とほぼ同じであった。特養利用者が入院した際に空いたベッドでショート利用者の受け入れを行い、また在宅介護を受けている特養申込者に対し、ショート利用の積極的な働きかけやケアマネージャーに対するベッドの空き状況を伝えた結果、稼働率が 90% を超えた月が 2 度あり、うち 1 度は 103% であった。また瀬古マザー園と矢田マザー園の両デイサービス利用者の担当ケアマネージャーや両デイサービス職員とのコミュニケーションを積極的に行い、利用者・家族ニーズを把握し、新規利用登録に繋げた。

## ア 利用登録状況

性別	前期末在籍者	登録者	解除者	期末在籍者	定員
男	5	0	3	2	4 / 日
女	10	12	10	12	
計	15	12	13	14	

## イ 要介護度状況 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
0	0	1	5	2	4	2	14

## ウ 施設利用状況

定員 (名)	月	延べ利用者数 (名)	1 日平均利用者 数(名)	利用率(%)	利用人員(名)
4	4	95	3.1	79.1%	13
	5	93	3.0	75.0%	10
	6	74	2.5	85.0%	11
	7	88	2.8	71.0%	12
	8	112	3.6	90.3%	15
	9	86	2.9	71.6%	14
	10	96	3.1	77.4%	12
	11	102	3.4	84.2%	13
	12	110	3.5	88.7%	14
	1	84	2.7	67.7%	11
	2	116	4.1	103.5%	12
	3	94	3.1	78.2%	10
	計		1150	3.1	78.7%

## 5 瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所

本年度ケアプラン作成件数は 553 件（前年度 622 件）で前年度比マイナス 11.1%であった。前年度途中で職員配置を 2 名から 1 名に変更した影響が出る形となった。平成 25 年 1 月より、再び職員配置は 2 名体制を確保することができた。

厚生労働省の委託事業として実施された「平成 24 年度在宅医療連携拠点事業『矢田川ネット』」に積極的に参加し、本年度目標として掲げた「医療を含めた関係機関との連携強化」に努めた。

## ア 施設利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ケアプラン作成件数	支援	8	7	6	7	7	5	5	5	6	6	5	6	73
	介護	51	51	35	35	34	37	38	36	38	41	40	44	480
計		59	58	41	42	41	42	43	41	44	47	45	50	553

## 6 瀬古平成会館

前年度老朽化し効きが悪くなった空調設備の更新を本年度行うことができ、よく使用される一階和室及び談話室については利用者の方に快適に利用していただけるようになった。次年度以降には、まだできていない空調の更新を行えるよう計画をしていく。

また地域でのコミュニティセンターとしての役割も担い年々施設利用者が増加しており、引き続き会館の維持管理・運営に努め、より一層地域の安心・安全拠点を目指し地域住民のマザー園来園の機会を増やせるよう、存在価値を高めていきたい。

## ア 施設利用状況

月	延べ利用団体数	延べ利用者数	実利用団体数
4	17	370	10
5	14	267	7
6	19	389	10
7	20	657	12
8	16	560	10
9	27	436	20
10	20	221	13
11	20	539	13
12	18	181	11
1	17	249	7
2	26	266	12
3	18	296	15
計	232	4431	140

## 7 ボランティア受入れ状況

### 団体関係

団体名	1回あたり 参加人数	活動日	活動内容	年間延活 動人数
グループあすなろ	5～6名	毎週金曜	盲養護入所者への朗読	約157名
瀬古小 PTA ママさんコーラス	12名	12月	ハンドベル・合唱の披露	12名
愛知県理容生活衛生同業組合(守山支部)	5～6名	毎月第一水曜	理髪奉仕(有償)	68名
元杵子ども会	20	9月	歌の披露	20名
点字ボランティア	約3名	毎月1～2回	毎月の行事予定・献立の点訳	50名
守山区自治会等	13名	11月	地域交流会手伝い	13名
オカリナーモ	11名	4月	オカリナ演奏	11名
アニマルセラ	15名	6月	アニマルセラピー	15名

### 学校関係

団体名	1回あたり 参加人数	活動日	活動内容	年間延活 動人数
守山西中学校	132名	9月	利用者とのふれあい・ジャズアンサンブル披露	132名
春日井高等養護学校	-	7、3月	茶道披露、交流会	35名
守西保育園	-	6、11月	歌の披露、利用者とのふれあい	45名
新川高校	1名	8月	夏期高校生ボラ活動	2名

### 個人

項目	活動日	活動内容	年間延活 動人数
書道指導	月1回	書道クラブ(瀬古入所者)	12名
書道指導	月1回	書道教室(矢田利用者)	12名
カラオケ指導	月1回	カラオケクラブ	5名
俳句指導	月1回	俳句クラブ	12名
音楽指導	月2回	音楽クラブ	19名
理美容	特養:月1回 養護:月3回	特養・養護美容奉仕(有償)	33名
陶芸指導	月1回	陶芸クラブ	14名

時計店	月 1 回	入所者時計修理	12 名
音楽療法	月 2 回	特養入所者・デイ利用者へ音楽療法（有償）	23 名
行事付き添い	随時	入所者外出行事付き添い	39 名
裁縫	月 1 回	養護・特養の繕い物作業	35 名
養護	随時	個別訪問、話し相手等	14 名
デイサービス	随時	エステ、入所者対応	14 名
大須演芸	不定期	落語	1 名
ダンス・盆踊り指導	4 月～8 月	1 回当たり約 4～5 名	32 名
演奏会	月 1～3 回	瀬古デイ・矢田デイ・養護	16 名
園芸	月 1～3 回	園内環境整備	63 名
ふれあい祭	11 月	地域交流会にて	59 名